

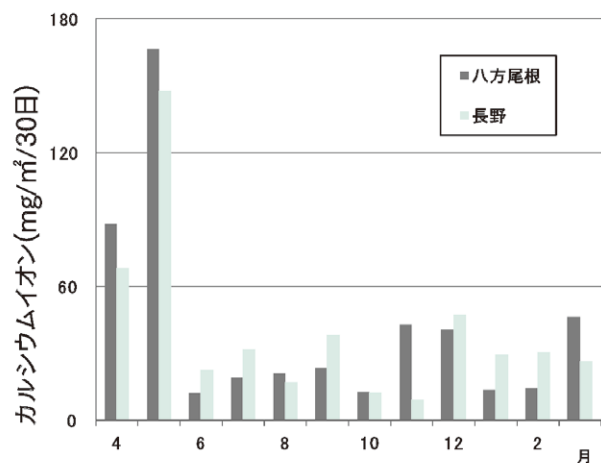
エコ・へるす

〇〇●● 長野県環境保全研究所ニュース 平成24年(2012年)6月29日発行 ●●〇〇
安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/index.htm Email: kanken@pref.nagano.lg.jp

降水がとらえた大規模な黄砂の影響

黄砂が降水に与える影響については「酸性雨調査からみた黄砂現象」として「エコ・へるす」第11号のトピックスに紹介しました。今回は平成23年度春の黄砂が、どのような影響を酸性雨にもたらしたか改めてご紹介します。現在、酸性雨の現象を測定するため、全国の様々な地点で降水のpHや成分が測定され、現状把握が行われています。当研究所でもそのような調査地点の一つとして、白馬村の八方尾根と県内4ヵ所の平地で、一ヶ月毎に降水をろ過しつつ捕集したものを測定する、酸性雨調査を行っています。各調査地点のpHは、長野県HPの「県内の酸性雨の状況について」*という項目で毎月更新してお知らせしています。

下図は、平成23年度酸性雨調査で得られた、長野市と八方尾根での降水によるカルシウムイオンの沈着量**です。4月から5月にかけてカルシウムイオンの沈着量が増加していますが、これは春先に増加する黄砂の影響だと考えられます。黄砂中には炭酸カルシウムが主成分として含まれていますが、この物質は難溶性で水に溶けにくいものです。しかし、黄砂が中国大陸から日本へ偏西風により輸送される過程で、炭酸カルシウムは大気中の酸性物質と反応、可溶化して、降水中に吸収されます。その結果、カルシウムイオンの沈着量が増加します。4月から5月のカルシウムイオン沈着量は、長野市と八方尾根とで差が小さいことから、平成23年度は長野市でも八方尾根と同程度の黄砂の影響があったものと考えられます。目測でも平成23年5月に大規模な黄砂現象が確認されています。



平成23年度酸性雨調査におけるカルシウムイオン沈着量

このように降水を測定することで黄砂の影響についても知ることができます。

* <http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/mizutaiki/taiki/sanseiu/sanseiu.htm>

** 沈着量：単位面積当たり30日間で測定された物質の量のことです。

(池田友洋 kanken-junkan@pref.nagano.lg.jp)

目次

「降水がとらえた大規模な黄砂の影響」	1
最近の話題 「長野市小学校での気温観測を始めました」	2
「健康食品に含まれる医薬品成分とは？」	3
平成24年度出前講座・お知らせ「2012夏の施設公開」	4